

瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT
2014.1. VOL.23

contents

極 研究&教育
Current topics in research and education

人 時の人
People in the news

技 最新医療の紹介
Latest developments on the medical front

和 お知らせ
Information

文部科学省・未来医療研究人材養成拠点形成事業 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」が スタートしました



ずっと、自分らしくいられる街へ。

なごやかモデル

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業として、本学の「地域と育む未来医療人『なごやかモデル』」が採択され、2013年12月7日、桜山キャンパスさくら講堂でキックオフ・シンポジウムが開催されました。シンポジウムに先立ち、事業の連携大学である名古屋学院大学および名古屋工業大学との間で共同実施に関する協定の調印式が行われました。シンポジウムでは、文部科学省高等教育局医学教育課・課長、袖山禎之様から当事業の趣旨をご紹介頂き、国立長寿医療研究センター総長、大島伸一先生の記念講演、6名のシンポジストによる事業の背景と計画の発表を行いました。シンポジウムには、3大学の教職員69名(本学48名)、学生233名(本学163名)、その他の関係機関および地域の皆様78名の計380名の方々にご参加いただき、当事業への期待の大きさと責任の重さを改めて実感しました。

「なごやかモデル」事業の目的は、住み慣れた土地で、豊かに老いを迎え、その人らしく暮らすことのできる社会づくり(Aging-in-Place, AIP)のための人材育成です。このために、高齢化が進む名古屋市緑区鳴子地区をモデル地区とし、学生や若い人材が、地域の住民や機関と協働して、質の高いAIPの実現に取り組みます。活動拠点として、同地区にコミュニティ・ヘルスケア教育研究センター(CHCセンター)を開設します。CHCセンターには、地域療養医学、薬学、生活看護学、リハビリテーション学、ヘルスケア工学の5講座を設置し、「暮らしの保健室」と「キャリア支援室」を開設します。「暮らしの保健室」では、保健師と学生が、住民からの相談に応じ、個別ニーズの把握とともに、事業への住民参加を促進します。「キャリア支援室」では、キャリア支援コーディネータが、「在宅医療多職種連携研修会」などを通じ、地域の医療・福祉資源の活性化を促進します。

日本の高齢化率は2060年ごろにピークの40%を迎えます。それは現在19歳の若者が65歳になる年で、今在籍中の学生の生涯の活躍の場は世界一の高齢社会です。この状況をチャンスにするには、彼らがこれから開拓し実践していく新しい医療システムや技術を、日本に追従して高齢化する国々に規範として示す必要があります。「なごやかモデル」を通じ、地域と大学が一体となって、若者達が挑戦とやりがいを実感できる魅力的な未来医療モデルをつくり、それを名古屋から世界に発信していきたいと思っています。皆様には、是非、当事業にご参画を頂き、斬新なご提案をお願い致します。



「未来医療研究人材養成拠点形成事業の共同実施に関する協定」調印式の様子



さくら講堂でのキックオフ・シンポジウムの様子

「なごやかモデル」HP <https://nagoyaka-model.jp> もご覧ください。

文責:早野順一郎(事業推進責任者)

“瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

連携病院

愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院

当院は、標榜科33科、病床数684床(7対1一般入院535床、ICU6床、NICU6床、GCU12床、小児入院51床、緩和20床、療養型54床)を有し、尾張北部医療圏の北部地域(江南、大口、扶桑、犬山)の中核病院として、急性期から慢性期に至る幅広い医療を提供し、市民病院的役割を担っています。また、二次救急告示病院、地域災害拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、機能強化を図ってきました。

今後も地域住民が安心して生活できるよう、医療機能の高度化、医療の質の向上、医療安全に努め、様々な疾患に対し、専門性を有した多職種が医療チームを組み、最良の医療を提供していきます。さらに、予防医療への取り組み及び地域の医療機関・福祉施設等との連携強化に努めるなど、この地域の医療を守っていきます。

院長 野木森 剛



病院外観



NICU
(新生児集中治療室)



オペ室の様子

三重県厚生農業協同組合連合会 いなべ総合病院

いなべ総合病院は三重県北部に位置し、いなべ市、東員町および桑名市、四日市市、菰野町の一部を診療圏とする急性期病院です。地域密着型の病院で住民や行政との交流を深め、特に行政からは多大な支援・協力を戴きながら運営しています。すでに地域災害拠点病院となり、本年度中には病院に隣接した専用ヘリポートもできますので、災害医療・救急医療にさらに貢献できるようになります。また日本医療機能評価機構認定や卒後臨床研修評価機構認定を取得した病院でありますので、患者には透明性を高め、患者のみならず職員や研修医も大切にしていこうという姿勢もっています。毎年、3名の初期研修医がきて名市大たすき掛け研修医と一緒に勉強し、医療技術を含めた実践的な力をつけるよう育てています。来年度からは群星沖縄の中核となる沖縄の浦添総合病院と連携をとり救急医療(ER)の勉強にも行って頂けるようになりました。

三重県になりますので随分遠い印象がありますが、大学病院からは自家用車なら1時間で来られる名古屋市中からも通院圏内の病院でもあります。最近増加しております女性医師の子育て応援病院となって医師確保を図っておりますので、フレキシブルな労働条件の緩和や見直しをして女性医師や特別な事情のある先生方にも働きやすい就業環境を提供しております。いなべ総合病院は市民の健康管理に貢献し、職員に優しくなれるよう、常に進化しています。

院長 水野 章



病院外観



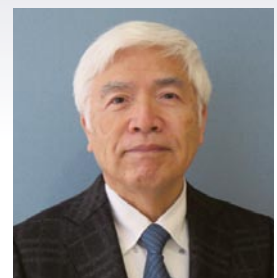
教育

M6開業医実習について名古屋市医師会理事の伊藤先生にお伺いしました

私は医学部学生臨床研修プライマリ・ケア実習担当の名古屋市医師会理事の伊藤でございます。平素は、本会会務に格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

名古屋市における医学部学生のプライマリ・ケア実習は平成13年に名古屋大学より始まり、平成15年度に名古屋市立大学、藤田保健衛生大学、平成21年度には愛知医科大学が参加しています。当医師会も各区医師会長始め会員の協力を仰ぎ、名古屋市立大学に関しては協力医療機関が当初の2倍を数えるまでに増えております。実習日数は短期間ですが、協力医療機関の医師は「家庭医」として診断・治療、予防医学、在宅医療など様々なタイプの医療現場を通して、地域医療の重要性を医学生に体験して頂く役割を担っております。

最近では全国の医学部において国際的な認証の取得が求められ、臨床実習期間を延長し、臨床参加型へと移行させる取り組みが始まり学生自身も指導医もこの実習の意義、重要性を理解していると思います。当医師会には多くの医学生が将来、地域医療に寄与すると共に今後、名古屋市立大学医学生教育の更なる充実とご発展を祈念申し上げます。最後に、私も卒業生の一人として、後輩の医学生が医療技術だけでなく人格的にも優れた医師になれることを心から願っています。



名古屋市医師会
理事 伊藤 知敬 先生

研究者紹介



Yutaro Hayashi

林 祐太郎(はやし ゆうたろう) 腎・泌尿器科学分野(病院教授)

専門:尿路再建・形成手術、腎・尿路・生殖器発生学、アンドロロジー

私たちの泌尿器科は、癌、尿路結石、排尿機能、不妊症、先天異常の研究を行っていますが、別々のグループに分離するのではなく、講座が一つのグループとしてワイワイガヤガヤ言い合いながら研究を進めています。その中でも私は性分化のメカニズムに興味を持って、若い先生たちと性分化の解明を目標にして研究を進めています。

診療では新生児から高齢者までの腎・泌尿器科疾患に対して全国に先駆けてロボット支援手術を行っています。高齢男性が罹患する頻度の高い前立腺癌のロボット手術は保険適応となって普及し始めていますが、水腎症や膀胱尿管逆流などの小児疾患に対するロボット手術は全国でも着手している施設がないため、先進医療をめざして病院事務、中央手術室、麻酔科、小児科、放射線科など各部門と協調して、小児に優しいロボット手術を積極的に行っています。

近年の論文:Urology 81: 1330-1335 (2013), Int J Urol 20: 769-775 (2013), Scientific World Journal 11: 289-301 (2011), Int J Urol 18: 317-322 (2011), Expert Rev Anti Infect Ther 8: 51-58 (2010)



Natsuko Kumamoto

熊本 奈都子(くまもと なつこ) 機能組織学分野(講師)

専門:神経科学、神経解剖学

長い間、「神経細胞は再生しない」と考えられてきましたが、哺乳類の成体脳においては、特定の領域(側脳室の側壁に面した脳室下帯および海馬の歯状回など)に神経幹細胞が存在し、神経細胞が産生され続けていることがわかってきました。私はマウスを用いて、成体の海馬で新たに生まれた神経細胞が既存の神経回路に組み込まれるメカニズムについて研究しています。このメカニズムの解明は、内在性幹細胞を賦活化し、非侵襲的に神経細胞を補填することで脳機能の回復を目指す「神経再生医療」につながると考えています。

近年の論文:Nat Neurosci 15:399-405 (2012), Biochem Biophys Res Commun 379:191-195 (2009), Biochem Biophys Res Commun 345:904-909 (2006)



Kinue Katano

片野 衣江(かたの きぬえ) 周産期・新生児医学分野(寄附講座講師)

専門:生殖免疫学、不育症、腹腔鏡手術

私は瀬戸市公立陶生病院に赴任していましたが、2010年1月から大学に帰局しました。現在は以下のような仕事をさせていただいております。

まず不育症診療と臨床研究。流産・死産を反復し辛い思いをされている患者様がひとりでも多く我が子を抱けるようお手伝いさせていただいております。またオベも大好きで、若い先生たちに婦人科領域の腹腔鏡手術(ラパロ)の指導をしており、ともに「ラパロの世界」の楽しさ・辛さを日々堪能しています。そして臨床シミュレーションセンターの副センター長をしています。各種シミュレーターを用いた周産期医学体験型実習はご好評を得ています。その他環境省プロジェクト、エコチル調査研究の担当もしています。

近年の論文: Fertil Steril. 2013 Dec;100(6):1629-1634 Hum Reprod. 2012 Aug; 27(8):2297-303. Semin Reprod Med. 2011 Nov;29(6):514-21. Hum Reprod. 2003 Dec; 18(12):2595-8. Am J Reprod Immunol. 2000 Nov; 44(5):289-92



Akihiro Hosono

細野 晃弘(ほその あきひろ) 公衆衛生学分野(助教)

専門:疫学、感染症公衆衛生

疾病罹患は、生命や健康はもとより社会生活へ悪影響を与えます。これをいかに減らすかが予防医学の命題であると考えています。現在、日本多施設コホート研究を進めており、がん罹患のデータを集積しているところです。私が専門とするこのような研究体系「疫学」はリスク要因とアウトカムを結ぶ学問体系で、その間にある詳細なメカニズムは触れないという特徴があります。時代に即していないという批判も当然あると思いますが、メカニズム解明に時間をとられない、という利点が最大であると思っておりますしこの考え方が私は大好きです。時折、研究デザインや解析の相談を受けることもあり、その面でもとてもやりがいを感じます。

近年の論文:Nagoya Med. J. 53(2):39-50 (2013), Eur Neurol. 66(1):42-6 (2011), J Epidemiol. May 5;21(3): 223-35 (2011), Environ Health Prev Med. May;15(3):129-34 (2010)

新任教授のご紹介

心臓・腎高血圧内科学分野—— 大手 信之 教授



大手 信之 教授

Q: 今後の抱負をおねがいします。

この度11月1日付けで心臓・腎高血圧内科学分野の教授を拝命いたしました。自由闊達な雰囲気になり、和を大切とする教室を作っていきたいと思っております。そして学部生・院生教育、循環器病・腎臓病の臨床、さらには研究を通じて医学研究科・大学病院の発展にも貢献したいと存じております。臨床教室として、プロフェッショナルリズム「Patient first」を矜持とし、患者さんの信頼に応えうるレベルの高い医療の提供と、臨床上の疑問点を臨床研究あるいは基礎教室の先生方との共同研究で解明することを目指します。私が行って参りましたことは、心エコー図を用いた心臓病の診断および心機能の非観血的評価、心臓カテーテル法による冠動脈疾患の診断・治療および心機能の観血的評価であります。患者さんの疾病診断・治療と並行した形で心機能・心臓力学の研究を行ってきました。心機能・心臓力学は、循環器内科学のやや古い領域にあたるかもしれませんが、循環器診療を行う上でなお重要なテーマであることは間違いありません。今後は、心不全を教室の主要研究テーマの一つに掲げ、心機能・心臓力学的なアプローチはもちろんのこと、その原因である冠動脈疾患・高血圧・慢性腎臓病の診療・研究に教室を挙げて取り組み心不全学の発展に貢献したいと思っています。その際、循環器・腎臓・高血圧の専門家を持つ当教室の陣容を心強く思っております。一生懸命に頑張りたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

神経内科学分野—— 松川 則之 教授



松川 則之 教授

Q: 今後の抱負をおねがいします。

この度11月1日付で神経内科学教授を拝命致しました。
私は、昭和63年名古屋市立大学を卒業し、旧第二内科に入局し、2002年4月からは開設された神経内科講座にて神経内科学・神経科学の研鑽を積んで参りました。主たる専門は、アルツハイマー病の分子病態解明・臨床診療およびパーキンソン病診療（運動機能障害・認知機能障害）です。急速に高齢化が進むわが国において、神経内科医の活躍すべき領域は益々拡大するものと予測されます。大学の使命として学生・医師教育に注力し、良質な神経内科医を一人でも多く育成し、名古屋市立大学として社会に貢献できるように尽力したいと思います。中でも、アルツハイマー病を初めとした認知症は、早急に解決すべき社会問題のひとつです。記憶メカニズム解明の観点から、これまでに我々が発見した神経ペプチドとその前駆体タンパクの研究を進展させ、アルツハイマー病態の解明および創薬を目指した基盤研究を行いたいと考えます。神経内科教室では基礎的研究・臨床的研究を両輪として、名古屋市立大学発のオリジナリティーの高い研究を行うことで、医学・医療の発展に寄与していく所存です。ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

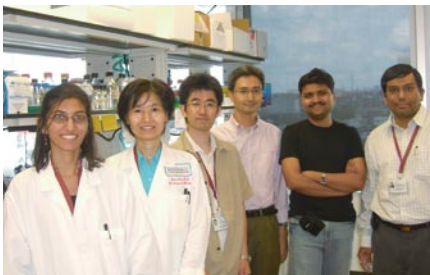
02 時の人 People in the news

若手期待の星★

消化器外科学分野 松尾 洋一先生



松尾 洋一 准教授



MDアンダーソンがんセンターの研究室にて

初めて研究に携わったのは2002年でした。テーマは膵癌血管新生。ご存知のとおり、膵癌は悪性度の極めて高い癌で、既存の化学療法は十分に満足のものではありません。研究の目的は、膵癌血管新生機構の解明と、そこに関わるケモカインの制御を治療へ応用することでした。大学院卒業後、MD Anderson Cancer Centerへ留学し、ケモカインの中和抗体が、膵癌に対して抗腫瘍効果をもつことを確認しました。帰国後は臨床を行いながら、若いスタッフと研究をすすめています。

留学で日米の研究体制の違いを感じました。日本は研究の主力は大学院生ですが、アメリカはポスドクが主力です。グラントを獲得すればだれでも principal investigator (PI) になれますが、大きなラボでもグラントがとれなければ閉鎖します。私の所属したラボは、できたばかりのラボで、その立ち上げが私の重要な仕事でした。厳しいながらも貴重な経験をさせていただきました。

臨床は肝胆膵外科を専門としています。患者様、そしてご紹介いただく内科の先生方のご期待にそえる外科的治療ができるように、さらなる努力を積み重ねていきたいと思っております。まだ若いチームですが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

新生児・小児医学分野 杉浦 時雄 先生

1999年名古屋市立大学を卒業後、故・杉山幸八郎先生、故・後藤健之先生の御指導のもと、学位を取得しました。その後、黄疸の中でも直接ビリルビンが高値を示す胆汁うっ滞疾患を研究テーマにしています。胆汁うっ滞を来す病気はまれですが、原因が多岐にわたり、診断、治療に苦慮します。現在は、大学院生の先生と次世代シーケンサーを用いて網羅的遺伝子解析を行っています。今後、胆汁うっ滞の病態解明、新たな治療法の開発につなげていくことが、亡き師匠への恩返しになると考えています。また、ウイルスの母子感染、中でもB型肝炎ウイルスやヒトT細胞白血病ウイルスを中心に、少しでも母子感染率を下げるための臨床研究も行っています。

2013年は大学のみでなく、関連病院の先生方とモスクワで行われた第11回世界周産期学会に参加させていただきました。総勢8名発表したのですが、帰りは7名でした。。。(パスポートを紛失したのですが、大使館に届けられており、翌日無事帰国できました。)

臨床面では現在、新生児集中治療室(NICU)の病棟主任を拝命しています。他科の先生方を含め、多くの方に助けて頂いてNICUが成り立っています。この場をお借りしてお礼申し上げます。



杉浦 時雄 助教



モスクワの国際学会にて
(この時はまさか1人帰れなくなるとは。。。)

ALSOがやって来た! —チームプレーで異常分娩に立ち向かう—



Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースであり、心肺蘇生トレーニングコースであるACLSや、外傷治療を学ぶATLSに基づき1991年に米国で考案されました。現在全米では、ほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOの受講を義務づけられています。日本では2008年に初めてALSOが開講され、この度2013年12月21日-22日に愛知県初、当院の臨床シミュレーションセンターで開催、産婦人科医、家庭医、初期研修医、助産師ら全国から30人の受講者(受講希望者90名)が参加しました。

講習内容は周産期救急現場における様々な病態と対処法についてのエビデンスに基づいたレクチャーと、マネキンやシミュレーターを用いた実技学習のワークショップであり、2日間のコースの最後には筆記試験と実技試験が行われました。ワークショップは、実際の分娩時に頻りに遭遇する吸引分娩や肩甲難産、産後大出血など、実際のシナリオに基づき、語呂合わせの手順に則って一人ずつマネキンを用いて手技を行う実践的なものであり、過不足なく迅速で安全な対応ができるようになることを目標としました。

今回のコースではALSO-Japan代表の金沢大学の新井隆成先生と私の前病院の指導医である聖隷浜松病院中山理先生ら、周産期分野の第一線で活躍されている先生を多数迎え、現在当大学病院勤務や当大学卒業生で全国で活躍している医師や助産師が多数集まりました。



参加の動機は産婦人科医では「周産期プロバイダーとしてのスキルアップ」、家庭医、初期研修医では「産科救急に強い興味」や「海外での医療活動」、また助産師では「チーム医療への貢献」と考える人が多く、それぞれ異なる理由でありながらも、産科救急に貢献したいという姿勢がうかがえました。周産期医療は、多くの職種の人たちが一致協力して行う典型的なチーム医療であり、分娩に携わるスタッフがより高い知識と技術を身につけることは、今後の日本の周産期医療レベルの更なるベースアップにつながっていくものと考えられます。ALSOによる周産期医療を支える医療プロバイダーの養成は、日本の産科医療体制の新たな形となるかもしれません。

出原麻里(産科婦人科・分べん成育先端医療センター分娩部)



学生生活

M4神谷幸余さんー東海合同リトリートに参加しました

再生医学分野に所属しております、医学部4年の神谷幸余です。12月26、27日に基礎医学研究者育成プロジェクトの一環として、三重県湯の山温泉で開催された、第二回東海合同リトリートに参加したことをご報告します。

東海合同リトリートは、東海6大学の医学生と今回は東京大学の医学生も参加しており、名市大からは、MD-PhDコースに所属している学生を中心に、10名が参加しました。研究の最前線で活躍している先生方のお話を伺ったり、自身の行っている研究を口頭やポスターで発表したり、有意義な時間を過ごすことができました。特に、ポスターディスカッションでの発表や、研究をしている学生同士でお互いの学生生活や将来の進路などについて意見を交わすことなど、普段はあまりできない機会を得ることができて、とてもよい経験になりました。

今回の東海合同リトリートで得られたことを、研究や学生生活に活かしていけるよう、努力したいと思います。



参加者一同での記念写真

第3回川澄クリスマス 今年は会場を変更して、さらにパワーアップしたクリスマス会! 企画したM5石田さんに聞きました

2013年度川澄クリスマス実行委員長のM5石田恵章と申します。

私たち川澄クリスマス実行委員会は、医学部長の浅井清文先生のご協力の下、医学部代表委員会(旧:自治会)を中心としたM5の有志メンバーで形成されています。川澄クリスマスも早いもので3年目を迎え、今年度は「医師、コメディカル、教員、事務職員、学生などの垣根をこえた親睦を図り、川澄キャンパス全体を盛り上げること」を目的として企画・運営しました。

例年は研究棟1階で開催されていましたが、今年度は川澄食堂で開催致しました。そのおかげもあってか、今年度は参加者が100名を越え、医師や事務職員、他学部の学生など多種多様な方々にご参加頂きました。

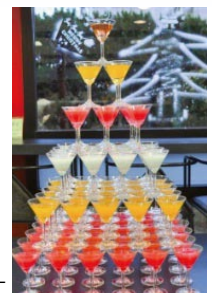
特に今年度の企画としては、「腕相撲大会」で学生優勝者と教員(ミスターX)との対戦や「先生対抗クイズ大会」で先生方の奇想天外な回答などで盛り上がりました。まだまだ行き届いていないこともあります、来年度もより楽しい川澄クリスマスを開催致しますので、諸先生方にはご支援・ご参加いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



先生対抗クイズ大会の様子



▲乾杯の音頭を取る
研究科長



▶展示品のシャンパンタワー

桜山の懐かしのお店紹介ー第15回「ブルーデル」さん

ドイツ語の響き「ブルーデル」。この言葉を聞くと、「ディー、デア、デン、ディー」の頃へもどり、「とってもおいしいドイツ菓子の店だよ」といったあの娘を思い出す。

今では「学生の頃からある大学近くのおいしいドイツ菓子です」と言いつつ、心では「名市大名物です」とつぶやき紹介している。

「シンプルでパイがおいしいですよ」と今も多くの学生に親しまれている。

文責:脳神経生理学 飛田



市大交差点から見えるレンガ作りの建物が目印です



学生さんお勧めのパイ



エクレアも有名です!



大塚教授が「モンゴル北極星勲章」を受勲しました

整形外科の大塚隆信教授がモンゴル国より「北極星勲章」を受勲しました。これはモンゴル国最高の国家勲章の一つで、モンゴルと日本の交流に貢献してきたことが高く評価されたものです。

大塚教授は謝辞の中で「10年以上にわたりモンゴル国の医科大学、整形外科病院、母子病院、癌センター、県病院などの医療施設にて講演、診察、医療設備整備などに携わってまいりましたが、その時々にお会いしたモンゴルの人々の温かい気持ちが忘れられません」と述べるなど、モンゴル国大統領への感謝の意を表しました。



大塚 隆信 教授

「エコチル調査国際シンポジウム in 名古屋」を環境省と共催

2013年11月15日(金)に、「エコチル調査国際シンポジウム in 名古屋」が環境省の主催、名古屋市立大学の共催により開催されました。2011年1月に開始したエコチル調査は、環境中の化学物質が子どもたちの成長や健康に与える影響を明らかにするため、10万人の子どもたちを胎児期から13歳まで追跡する大規模調査です。本学も全国15拠点の1つとして、東海地区を代表して調査を実施しています。今回のシンポジウムでは、米国、ドイツ、中国、フランスなど同じ目的で大規模調査を進める国の代表研究者が各国の状況を報告し、国際連携を進める事の意義が確認されました。また、シンポジウム後半では、国内エコチル調査の進捗状況や今後の展望についても紹介されました。調査参加者や市民の皆様へ、日本全国から200名以上が本シンポジウムに足を運んでくださいました。未来の子どもたちが健やかに育つための環境を作るために、引き続き皆様からエコチル調査へのご理解とご協力を頂ければ幸いです。

文責：山田 泰行 エコチル調査特任助教



ウイスコンシン大学Ruth A. Etzel氏からの報告。乳幼児突然死症候群(SIDS)の定義が国際的に不統一であることなども紹介、国際間の標準化や連携の重要性を説明。



シンポジウムの最後には、エコチル愛知ユニットセンター広報キャラクター「エコネコ。」も登場。和やかな雰囲気。

ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思います。

例えばこんな一言を、

- 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
- ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
- 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
- などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は5月号です)

- 一言メッセージ(30字以内)
- 卒業年度
- お名前(ふりがな)
- *匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。
- *4.住所
- 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません

広報誌：瑞 医(ずい)
発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成26年5月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☐
我こそは
通信員!

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 広報担当まで